



水難、嬌声、ホテルの小部屋。

以下作中から無作為に引用

鶏のソテーもすこしずつ熱を失っている。

レスト・イン・ピース、ステイ・アト・
ここで みなそこに耀える部屋パネル
かがよ

この部屋だけ水面に浮かんで

せりふを見ることができます

大岩雄典個展「別れ話」

大岩雄典は、2017年に第4回CAF賞海外渡航費授与賞、また2019年には第16回芸術評論募集佳作入選など、制作・執筆をまたいで活動し、日本の現代美術シーンで注目を集める作家です。映像やテキスト、インスタレーションの形式をとり、物語論やゲーム研究、哲学、文学などへの知見をとり入れた大岩の作品は、現代の「フィクション」の形を考えるさいの、特異な参照点となるでしょう。今回の個展では、普段は主に劇場として活用される「北千住BUoY」の、2階にある稽古場とアートギャラリーを用いて、ひとつの、あるいはひとつになれない物語を構成します。

会期 : 2020年2月8日(土)から16日(日)

会場 : 北千住BUoY 2階 アートギャラリー・稽古場

写真 : 中西真穂

歌会協力: 伊舎堂仁、中島裕介、服部恵典、吉田恭大、BOOKSHOP TRAVELER(下北沢)

音響設計: 増田義基

作中引用: モーリス・ブランショ『私についてこなかった男』(谷口博司訳、書肆心水)

本展示は、岸井大輔企画「形」の一部です。企画「形」は、北千住BUoYを会場に、複数の講義・演劇上演、展示が、8日間にわたって隣接して展開されるプロジェクトです。毎日複数回開催される講義には、さまざまな専門領域のゲスト講師をお招きしました。いずれかの講義に申し込みいただくと、その前後の時間で大岩雄典個展「別れ話」をご覧いただけます。「形」ウェブサイト: <https://playsandwork/skatakchi/> 各講義: 3000円(学生1500円) フリーパス: 10000円(学生6000円) 「形」ロゴデザイン: 山本悠